

ソフト界面新技術発表会報告

筑波大学数理物質系物質工学域 長崎幸夫

平成 24 年 11 月 9 日(金)、東京大学山上会館にて表記発表会を行なった。今回は特に文部科学省科学研究費新学術領域「ソフトインターフェースの分子科学」5 年間の成果を社会還元していく思いを込めて、実用化の可能性の高い 10 件の成果の発表会を行い、企業からのおよそ 40 名を含め、70 名程度の参加者があった。前田領域代表の挨拶の後、九大高原先生の無機材料を巧みに利用した界面設計と多様なアプリケーションに関する報告を皮切りに、ソフト界面を利用した「皮膚モデル」(山形大野々村)、「セルロース触媒」(東工大芹澤)、「細胞分離」(国立循環器センター山岡)、「生体組織モデル」(阪大松崎)、「磁性ビーズ」(農工大吉野)、「光触媒」(東北大和田)などの画期的発表が続いた。また、世界的に高性能化が切望されているバイオ界面の表面処理に関して「新シランカップリング剤」(産総研田中)、「高性能免疫センシング」(東大高井)および「パッシブおよびアクティブブロッキング剤」(筑波大長崎)と様々な提案がなされた。長めの質疑時間を取って始めたものの、時間が足りないほど活発な議論が繰り広げられた。

このように「ソフト界面の分子科学」から新たな産業を創出させる基盤技術が展開されることを祈念して本稿を閉じる。



講演会の様子



東大高井まどか先生のご発表

ソフトインターフェースの分子科学「新技術発表会」

文部科学省科学研究費補助金新学術領域研究「ソフト界面の分子科学」主催
http://www.ims.tsukuba.ac.jp/~nagasaki_lab/nagasaki/sis/program.pdf

- 13:00-13:10 領域代表ご挨拶
理研 前田瑞夫
- 13:10-13:30 無機ナノチューブミセル
九州大学先導物質科学研究所 高原 淳
- 13:30-13:50 新規シラン系表面修飾材料
産業技術総合研究所 田中睦生
- 13:50-14:10 フラクタルエラストマー/ゲル
山形大学大学院理工学研究科 野々村美宗
- 14:10-14:30 セルロース触媒
東京工業大学大学院工学研究科 芹澤 武
- 14:30-14:50 幹細胞分離システム
国立循環器病研究センター 山岡哲二
- 14:50-15:10 休 憩
- 15:10-15:30 高感度免疫アッセイ用抗体固定化基材
東京大学大学院工学系研究科 高井まどか
- 15:30-15:50 生体組織モデル
大阪大学大学院工学系研究科 松崎典弥
- 15:50-16:10 タンパク質-ナノ磁性ビーズ複合体
東京農工大学大学院 工学研究院 吉野知子
- 16:10-16:30 酵素やタンパク質表面を活用した化学反応制御法の創製
一特に光反応を活用した超分子不斉光反応の創製一
東北大学多元物質科学研究所 和田健彦
- 16:30-16:50 ブロッキング材の設計
筑波大学数理物質系 長崎幸夫
- 16:50-17:00 事務連絡・閉会
筑波大学数理物質系 長崎幸夫

日 時： 2012年11月9日(金) 13:00~17:00

場 所： 山上会館2階大会議室

<http://www.sanjo.nc.u-tokyo.ac.jp/sanjo/>

所在地：〒113-8654 東京都文京区本郷 7-3-1